

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：文学と芸術

部会長名：樋口大祐

作成者名：樋口大祐

概要（2000 字）

「文学と芸術」教育部会においては、例年通り「日本の文学」「世界の文学」「言語と文化」「伝統芸術」「芸術と文化」の 5 科目の授業を、文学部・国際文化学部・発達科学部の教員の担当によって行った。今回の自己点検・評価報告書は、12 名の担当教員による報告をまとめたものである。

全体的には、どの評価項目に対しても、完ぺきではないまでも一定以上の成果を達成したとの自己評価がなされていると考えられる。ただし、「芸術と文化」の船阪教員の場合、「茶の湯と煎茶」に関わる授業を行う上で、本来であれば受講生に実地体験をさせることが理想的であるにもかかわらず、教室環境等の事情により、それが果たせないことが残念であるとの報告もあり、この点は今後の懸案の一つであろう。それ以外の点では、特に大きな問題は生じていないと考えられる。

当教育部会の学習目標は、人が生きる上で必要な「豊かな感性と深い叡智」を育むために不可欠な存在である「文学・芸術」について、受講生が一定の知識と見識を習得する、ということにある。具体的な作品群とその創出者である作家群の紹介を通して、人類史の長い歴史の中でそれらの作品群が果たしてきた積極的な意義、またその複雑で多元的な流れを知り、過去に人類が築き、また現に築き上げつつある文学的・芸術的なものの豊饒さについて、基本的な見識を身につけることを目標とする。そしてそれらを通じて、人間の「豊かな感性と深い叡智」をはぐくむ言語能力や知覚能力の根源的な重要性と意義について、正確な認識を獲得することをも目標としている。

学生の多様なニーズを踏まえて、これらの目標を達成することは実は大変困難な事柄である。文学や芸術は、西洋においては、その宗教的・知的伝統の中で、一定の普遍的価値を有するものとして位置づけられており、初中等教育においてもそれに相応しい位置づけがなされている。しかし、近代日本においては、その成果の豊かさに比して社会的な位置づけが高くなかった状況の中で「文学」「芸術」概念が輸入されたのであり、実学優先の近代史の過程を経て、現在においても、人間形成の過程におけるその不可欠な役割が十分に共通認識とされているとは言い難い（これは学問としての「人文学」の位置づけとも関わる）。

従って、共通教育の現場においても、受講生に対して、「文学・芸術」の普遍的価値を認識させるためのさまざまな工夫を凝らす必要があり、各担当教員はそれぞれの分野において、そのための努力を行っているものと認められる。

18 世紀後半、イマヌエル・カントが「諸学部の抗争」で述べたように、人文学（ひいては文学や芸術）の役割は、狭義の実学的有用性とは別のところで、短期的目標の追求から距離を置いたところで、言語や他の知覚機能を通して歴史的・社会的状況の総体的把握につとめ、その認識を通じて自己と社会に対する新たな働きかけを生み出していくところにある。

現在の日本では若者の無気力化・退嬰化が指摘されて久しいが、若者に当面の歴史的社会的状況を超えた新たなヴィジョンを示すことも文学・芸術の根源的な役割の一つである。教室環境の問題等、現在の「文学と芸術」部会の状況は必ずしも理想的とは言えないが、今後とも「文学・芸術」の普遍的価値を示す意義が衰えることはないと考えられる。

様式 2（続き）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

配慮している。

根拠資料

シラバス、授業中の配付資料等

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）

おおむねその通りである。

根拠資料

シラバス、授業中の配付資料、課題一覧等。

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

配慮されている。

根拠資料

配付資料、コメントシート等

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

（観点に係る状況）

作成され、活用されている。

根拠資料
シラバス、授業記録。

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。
(観点に係る状況)
行なわれている。

根拠資料
配付資料、スライド等。

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。
(観点に係る状況)
されている。

根拠資料
シラバス、配付資料、教員アンケート、試験問題

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。
(観点に係る状況)
講じられている。

根拠資料
シラバス、配付資料、教員アンケート

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。
(観点に係る状況)
上がっている。

根拠資料

コメントシート、授業記録、教員アンケート等

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

環境が十分に整備されているとは言えない。

根拠資料

教員アンケート等

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

おおむね適切に実施されている。

根拠資料

教員アンケート

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

充分理由のある要求には対応している。

根拠資料

シラバス、教員アンケート等